

第1分科会

「学校部活動をとりまく環境の変化について」

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 田中 雅光 (呉羽・テニス) | 團 伸宏 (井波・陸上) |
| 酒井 博 (石動・ソフトテニス) | 島田 誠治 (福野・スキー) |
| 近堂由美子 (滑川・ウエイトリフティング) | 寺井 肇哉 (氷見・自転車) |
| 野村和佳子 (中央農業・ゴルフ) | 高橋 弘 (福野・相撲) |
| 福島 浩一 (富山中中部・アーチェリー) | 粟江 哲朗 (有磯・ヨット) |
| 加藤 栄一 (富山東・ソフトテニス) | |

第1分科会では、「学校週5日制」が運動部活動に与える影響について調査・研究を行った。以下の内容が2年間の調査・研究内容である。

1. 実態把握
2. 事例集の調査・作成
3. 競技力向上のための練習方法と練習環境の研究

1. 実態把握

アンケート内容

平成14年度10月上旬実施

1) 昨年度と今年度の運動部活動のできる時間を答えてください。

	昨年度	今年度
例	3:40~6:00	4:30~6:0
月	~	~
火	~	~
水	~	~
木	~	~
金	~	~

(2) 土曜日・日曜日の運動部活動の活動時間について答えてください。

例 ・土曜日・日曜日の部活動はどちらか1日だけ認める。
・特に規定はなく自由に活動してよい。

(3) 完全学校週5日制の導入で運動部活動の活動時間はどうか答えてください。

- ①変わらない
- ②少なくなった
- ③多くなった

特記事項あれば書いてください。

(4) 完全学校週5日制の導入で運動部活動の活動内容はどうか答えてください。

- ①変わらない
- ②悪くなった
- ③土曜日・日曜日が休みになったことでより深い部活動が可能になった。

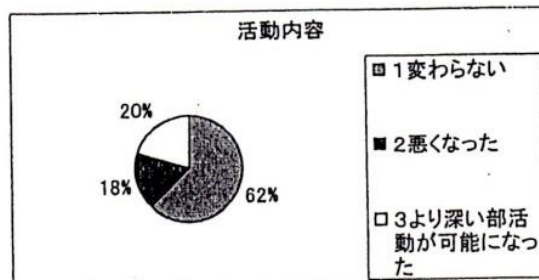
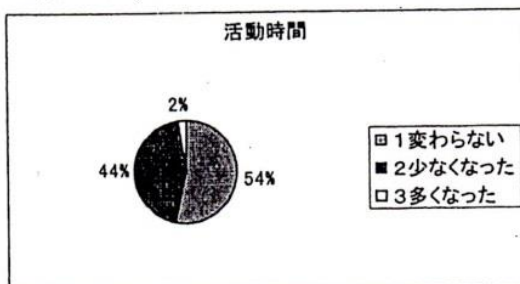
特記事項あれば書いてください。

アンケート結果より(回答校41校)

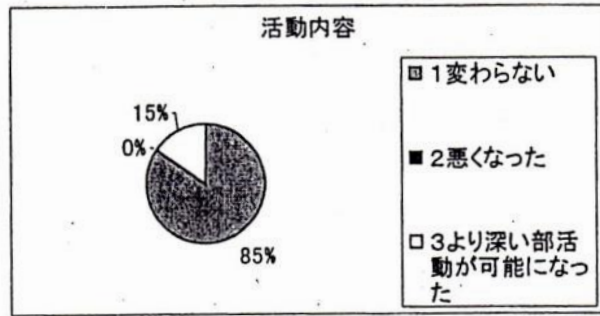
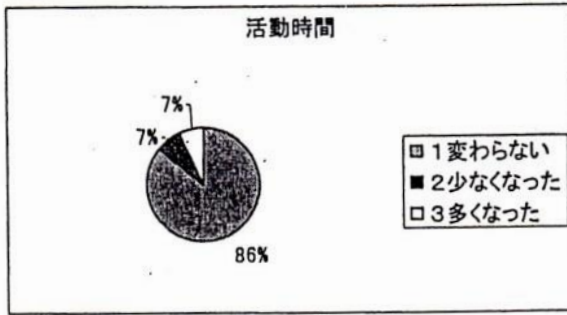
①完全週5日制の導入で運動部活動の活動時間はどう変わりましたか。

②完全週5日制の導入で運動部活動の活動内容はどう変わりましたか。

~全体~(41校)



A～7限実施していない～(14校)



Aの特記事項

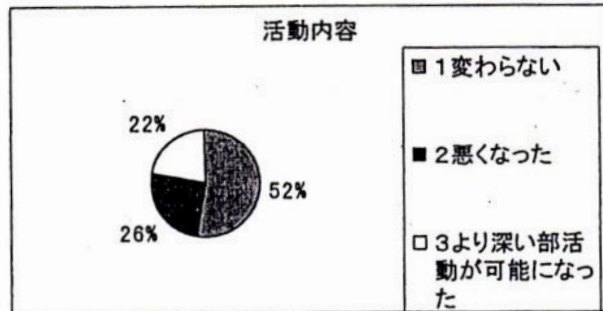
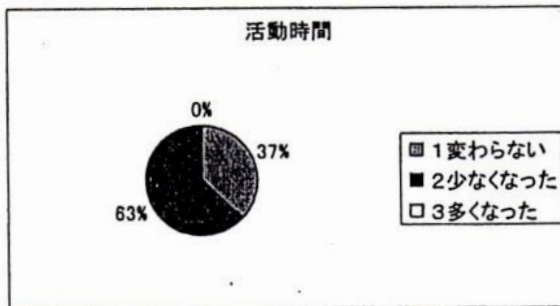
①について

- ・職業高校と定時制高校が主であり2極化している。
- ・平日は前年と変わらないが、土・日曜日についても変わらないという回答が多い。
- ・休日を全て部活動に費やすのではなく、家庭学習時間を補償しているようである。
例 1日は休み or 1/2日×2
- ・部活動を重視する高校では多くなったという回答もあるが、概ね土・日曜日でも変わらないとの回答が多い。

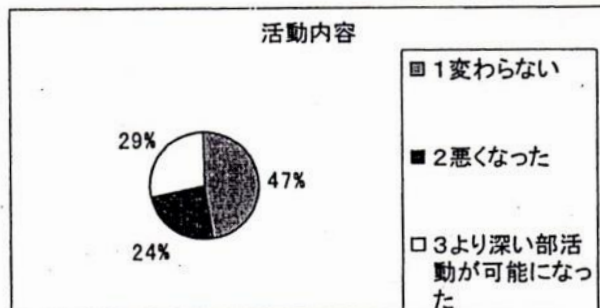
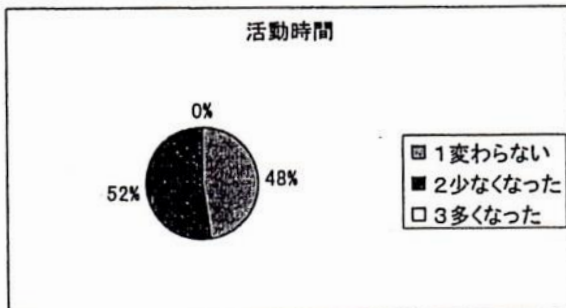
②について

- ・時間は変わらないとの回答が多いことより、内容も変わらないという学校がほとんどである。
- ・土・日曜日を練習試合等でフルに活用する活動では、より深いものになったとしている。

B～7限実施校～(27校)



B1～7限実施土曜補習なし～(21校)



B1の特記事項

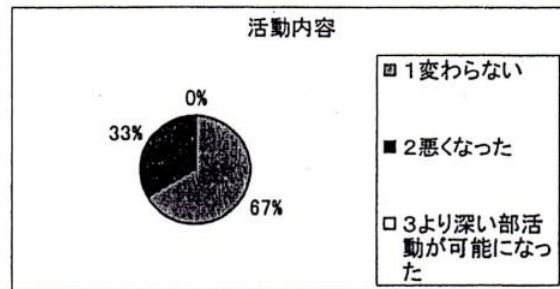
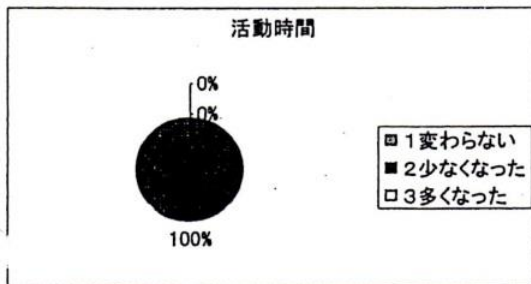
①について

- ・学習において放課後等の個別指導・課題が増え、活動時間が減ったと回答している学校が非常に多い。
- ・週2回の7限の日には、延刻しても1時間30分しかできない。延刻しなければ30分程度と回答している学校もある。
- ・平日の活動時間は短くなったが、土曜日は活動時間は増えた。
- ・週1日の7限授業の日には、休養日や自主トレーニングの日としている。

②について

- ・学習において放課後の個別指導や課題のため、全員がそろわず、遅れてくる生徒のけが、コミュニケーション不足が生じ、円滑な部の運営がしにくくなった。
- ・土・日曜日が休みになったことで、練習試合や合同練習がしやすくなったと回答する学校が非常に多い。またそれに加えて、指導教諭の負担が大きくなったと回答する学校もあった。
- ・生徒の出足がそろわない。活動が低調。
- ・7限授業や諸会議等で顧問の指導時間が減ったと回答する学校も少なくない。

B2～7限実施土曜補習あり～(6校)



①, ②とも特記事項の回答は得られていないが、すべての学校が活動時間は少なくなったと回答している。また、B1にあるような活動内容の悪化はすべて当てはまるのではないかと考えられる。

2. 事例集の調査・作成(抜粋)より

滑川高等学校女子ソフトボール部

①平成15年度高校総体の結果

優勝(参加チーム21)

②部の目標

全国大会優勝

④外部コーチはいるか。いる場合、コーチングの時間と学校の関わり方。

1名(ボランティア)

⑤顧問の先生のコーチングの時間とその対称の生徒。

放課後の全体練習に2～3時間(全部員対象)

⑦部活動以外で生徒の自主的な練習があるか。

朝練習と放課後の全体練習後の自主練習

⑨県外遠征や練習試合等の回数および日程。また年間計画を立てているか。

練習試合(年間30～40日で50～60試合)

年間のおおよその計画は立てるが、大会前に調整を行う。

水橋高等学校女子テニス部

①平成15年度高校総体の結果

団体2位, ダブルス3位, シングルス3位

②部の目標

全国大会出場

④外部コーチはいるか。いる場合、コーチングの時間と学校の関わり方。

いない

⑤顧問の先生のコーチングの時間とその対称の生徒。

平日, 土曜, 日曜, 全員

⑦部活動以外で生徒の自主的な練習があるか。

朝練習をしている者がいる。

⑨県外遠征や練習試合等の回数および日程。また年間計画を立てているか。

県外遠征年3回，練習試合10回程度。
年間計画は概ね立てている。

高岡高等学校男子テニス部

- ①平成15年度高校総体の結果
団体2位
- ②部の目標
全国大会出場
- ④外部コーチはいるか。いる場合，コーチングの時間と学校の関わり方。
いない
- ⑤顧問の先生のコーチングの時間とその対称の生徒。
平日，土曜，日曜，全員
- ⑦部活動以外で生徒の自主的な練習があるか。
朝練習をしている者がいる。
- ⑨県外遠征や練習試合等の回数および日程。また年間計画を立てているか。
県外遠征年2回，練習試合10回程度。
年間計画は概ね立てている。

富山中部高等学校サッカー部

- ①平成15年度高校総体の結果
ベスト4
- ②部の目標
富山県チャンピオン
- ④外部コーチはいるか。いる場合，コーチングの時間と学校の関わり方。
いる。週1～2時間（スポーツエキスパートに登録）
- ⑤顧問の先生のコーチングの時間とその対称の生徒。
火・水・金 60～90分（コーチ1人，対象：全メンバー）
土・日 トレーニングかゲーム。できるだけ土日を分けて、どちらかが休みとなるようにしている。
- ⑦部活動以外で生徒の自主的な練習があるか。
ほとんどなし
- ⑨県外遠征や練習試合等の回数および日程。また年間計画を立てているか。
年1回 8月3泊4日 練習試合・公式試合は週1回のペース

富山東高等学校サッカー部

- ①平成15年度高校総体の結果
ベスト8
- ②部の目標
部活動を通して人間的な成長をすること。部活と学業の両立。やる以上は勝てるように。
- ④外部コーチはいるか。いる場合，コーチングの時間と学校の関わり方。
スポーツアドバイザー 週4回一回に2～3時間
- ⑤顧問の先生のコーチングの時間とその対称の生徒。
ほぼ全員
- ⑦部活動以外で生徒の自主的な練習があるか。
特になし
- ⑨県外遠征や練習試合等の回数および日程。また年間計画を立てているか。
県外遠征2回（8月に3泊4日・3月に3泊4日）

井波高等学校陸上競技部

- ①平成15年度高校総体の結果
女子4×100mリレー4位

女子400mH 7位 女子3000m競歩 6位 女子走り高跳び 3位
女子走り幅跳び 2位 女子やり投げ 3位

②部の目標

全員北信越大会出場（顧問が勝手に思っている）

インターハイ出場（生徒によっては入賞）

④外部コーチはいるか。いる場合、コーチングの時間と学校の関わり方。
無し

⑤顧問の先生のコーチングの時間とその対称の生徒。

できるだけ全員

平日1時間

土・日2～3時間

⑦部活動以外で生徒の自主的な練習があるか。

朝練習を1年生がしている。

休みの日に中学校に教えに行く。（1年生にしか経験者がいないので1年生のみ）

⑨県外遠征や練習試合等の回数および日程。また年間計画を立てているか。

合宿は年2回

8回（北信越大会2回、北陸選手権大会1回を含む）、記録会3回

合宿・遠征等の年間計画はだいたいのものを年度当初に計画して事務提出。

②部の目標が高い。

⑦朝練習など練習時間を確保している。

⑨県外合宿や練習試合等年間計画を立てている。

3. 競技力向上のための練習方法と練習環境の研究（2年間のまとめと今後の課題）

競技力向上のための練習方法と練習環境の研究を2年間のまとめと考えていた。しかし、「学校週5日制」の2年目にあたる今年度の練習時間と練習内容等調査をしていくと、状況は更に悪化していると答える先生が非常に多かった。以下が主な意見であった。

・教員の多忙化が一層進み、部活動の指導は全くできなくなった。選手の強化というよりも事故等への対処が不安。

・今も変わらない。（冬が近づくにつれて外は暗くなり、事態は更に深刻になる。）

・7限授業と土曜補習の影響で以前より苦しくなっている。

・7限授業が増えたことと放課後の行事が増加したこともあり、終了時間の延長もできないので最悪である。練習内容は、生徒が独自にやっているが高体連より指導者を派遣してほしい。

このような「教員の多忙化」「コーチングの時間を取れない」という否定的な意見だった。

しかしその一方で、「可能な時間内でやるべきことをやる。また、何がやれるのかを考えればいい。」と前向きな意見もあり、その立場で色々考えた意見を述べる。

・「一回戦勝利でもいい。目標を持たせたい。」

・事例集にもあるように「今の生徒は時間を有効に使えない。」1時間で終える練習メニュー等考えていく。

・専門部で強い選手のレベルアップだけではなく、底辺のレベルアップの練習会等企画していく。

2年間という短い期間では、満足できる研究内容ではないものの、学校の運動部活動環境は、「学校週5日制」だけではなく「機械警備・日直の廃止」「学力補充のための補習授業」等確実に変化している。全国レベルでこのような事例集を調査・研究し、教員・生徒が満足できる「運動部活動環境」を目指して努力していく必要がある。という問題提起になったのではないかと考える。